

2010年度（平成22年度）事業報告書

2010年4月1日～2011年3月31日

- | |
|--------------------|
| ① P2-P3 会長メッセージ |
| ② P4-P5 平成22年度活動総括 |
| ③ P6-P7 詳細資料 |
| ④ P8 お知らせ |

2011年6月18日

認定 特定非営利活動法人
C. P. I. 教育文化交流推進委員会

これからの助け合い社会の実現に向けて、がんばりましょう

国税庁認定 NPO 法人

C.P.I.教育文化交流推進委員会

会長 小西菊文

C. P. I. の WEB サイトで申し上げたこと

私は当会の WEB サイトで、東北地方・太平洋地震の被災で亡くなられた皆様に謹んでお悔やみを申し上げ、復興にあたっておられる方々にインドネシアの地震・火山噴火被災救援の現場から連帯の挨拶を申し上げました。

日本で未曾有の震災の起きた3月 11 日の前日、3月 10 日に、私はインドネシアのジョグジャカルタにおりました。地震やムラピ火山の噴火で被災し、男手をなくした母子家庭の救援プロジェクトを開始するためでした。

当初参加の5グループ 132 名の中には、C.P.I.の教育里子卒業者たちもおり、「奨学金で勉強して結婚し母親となったのに災害で夫を亡くし途方にくれていたが、このプロジェクトの若手のリーダーとして頑張りたい」と話していました。



3月10日のプロジェクト開始式にて

みなさまのご寄付のおかげです

救援プロジェクトは、グループ(20~25人)単位にマイクロファイナンスを行い、工芸品製作を身につけてもらい、販売をインドネシア女性組合(KOPWNI)のネットワークで助けるというものです。

5年間で、1000名に広げる予定です。

最初の支援資金は120万円。

少ない資金で高い効果を出せるという画期的なプロジェクトです。

資金は、日本折紙協会のご協力によるインドネシアの中・高校を対象とした『折紙テキストブック』頒布への協賛金の形で500名の方々から戴いたご寄付および、2009-2010年のインドネシアフェスティバル(於:東京・代々木公園)での募金等ご寄付により賄いました。

そして、工芸品生産の材料置き場などに必要な土地確保等の諸課題には、インドネシア政府の婦人問題省が中心になってバックアップして下さることになりました。

本報告にて感謝を申し上げます。

世界中で毎年発生する大災害！

助けあい社会の確立 が求められます

C.P.I.は、私たちが推進し目指してきた、『ひとりが人々を想い、人々がひとりを助ける社会づくり』のプロジェクトだけを、手掛けています。皆さまが参画されている教育里親制度と大いに関連し、C.P.I.の目的に合致するものです。



時代を予感した、昨年のシンポジウム

昨年 11 月に発行したステューティ新聞で、9月 18 日に開催した SNECC との共催シンポジウムの全容を掲載致しました。再度お読みくださり、前記の「**助けあい社会の確立 が求められる**」とのシンポジウムの意義を、改めてご理解戴けたら有難く存じます。



パネラーとして、社会福祉法人佑啓会ふる里学舎理事長・里見吉英さんの言われた、「子どもたちは、生まれる国を選べない、生まれるときの環境を選べない。だから、周囲の人々は子どもたちを温かく見守り、助け、そうすることで自分たちの心を豊かにするようになっていかなければならない」とのひと言に共感を覚えたものです。また、SNECC のチャンダシリ事務局長の、「NGO の活動は、その目的とあった活動をきちんとしているかどうか問われる。組織というより、参加している人々が問われると思う。きちんと活動している人々のいる NGO に対しては、一般社会や政府の中のよい人々も共に活動したいと言ってくるものだ。C.P.I. や SNECC は、そうであるが故に、Cooperative organization In Society (CIS) なのだ」



TV 放映された、教育里子たちによる、デング熱・害虫駆除キャンペーン



バシル ラジャパクサ大臣と『健康都市計画と教育開発』についての会談日を相談する小西会長



スリランカにおける教育里親制度発起 25 周年会場の教育里子たち

との言葉に勇気が湧きます。助けあいへの参加者の気持ちが大事ということですね。

時代は変わる。C.P.I. の役割は、減ることも、増えることも、変わることもあります。

大切なのは、子どもたちの未来のために必要なことを早く、できることから始めるには、いま何をすべきか、ということではないでしょうか。

私たちが支援する受益者は、次の瞬間には他の人々を助け喜ばす人になる、と信じること、その気持ちをもって、私たちが、一人ひとりの立場で、困窮してはいるが頑張っている子どもたちを助ける活動を続けることが、東北の被災のあと復興に励んでおられる方々との、連帯になるのだと、改めて決意をしたいところです。

C.P.I. の仲間として、共に頑張りましょう。

平成 22 年度（2010 年度）活動の総括

1. 教育里親制度プログラム（定款第七条 1 項 1 号）

(1) 貧困家庭にある優秀な学生への教育支援

① スリランカ SNECC との協働（資料 1-(1)に詳細）

教育里子数 666 名（前期 674 名）に対し、教育里親口数 621 口（前期 653 口）で 1,500 万円の教育支援を行った（内訳：教育里親から 1,436 万円、スリランカ特別会計から 64 万円）。

（註）9年生 79 名、10 年生 58 名、11 年生 141 名、12 年生 3 名、13 年生 198 名（2011 年に初の AL 試験）、13W 生（2011 年に再度 AL 試験）187 名。

② インドネシア PPKIJ との協働（資料 1-(2)に詳細）

教育里子数 302 名（前期 270 名）に対し、教育里親口数 226 口（前期 234 口）で 550 万円の教育支援を行い、PPKIJ 調査等活動に対して 208 万円インドネシア特別会計から支援した。

（註）中学 3 年生 40 名、高校 1 年生 104 名、高校 2 年生 68 名、高校 3 年生 44 名、大学 1 年生 21 名、大学 2 年生 25 名。

(2) 教育里親に対する里子の状況報告

① スリランカ——OL 試験結果・AL 試験結果・年末報告および現地会報の発行を行った。

② インドネシア——年末報告および現地会報の発行を行った。

(3) 会員に「教育支援」の成果を実感して戴くよう努めた

年末の教育里子報告に加え、会長が地域巡回をして現地報告の充実に努めた。

(4) 里子卒業生など現地の人々による教育里親の発掘

① スリランカでは、200 名の現地教育里親を得て、同数の教育里子を支援している。

② インドネシアでは、里子卒業生会を立ち上げ、指導している。

2. シンポジウム『これからの助けあい社会』と、教育里子との交流会を開催

2010 年 9 月 18 日、幕張グリーンタワーホテルから会場協賛を戴き、SNECC との共催で開催。

小西会長がモデレーターを務め、社会福祉法人 佐啓会 ふる里学舎 理事長・里見吉英氏、SNECC 事務局長・チャンダシリ氏をパネラーにシンポジウムを行い、その後、教育里子の中から舞踊・歌曲の選抜者として来日した 5 名の学生たちによる文化交流が行われた。

その模様を、ステューティ新聞 10 号（2010 年 11 月発行）で発表した。

3. 貧困な人々の自立を、教育開発により助ける活動（定款第七条 1 項 2 号）

(1) スリランカにおける実務学校への教育開発

OL 課程を卒業しながら AL 課程に進まなかった学生で、実務学校に行く意志の強い者に対し、SNECC が、家庭状況その他の査定を行った上で支援を行った。

(2) インドネシアにおける教育開発

① 2011 年 4 月 1 日にインドネシア政府内務省との間で教育里親制度推進・各地の教育開発および能力開発・文化交流の 3 事業に係る協働契約を更新するため、事前協議を進めた（約 4 ヶ月）。

調印式には、在インドネシア日本大使館、インドネシア政府外務省・東ジャワ州・中部ジャワ州・西ジャワ州・南スラウェシ州の国際協力局からの要人、スマラン市・チアンジュール市・マカッサル市の市長、モハマディア大学の学長が、出席された。

② PPKIJ がチアンジュールで運営している高等学校（コミュニティカレッジ）の学生に対する、設備などの充実に関わる企業協力を進めるため、活動を開始した。

③ 2011 年 3 月 10 日、中部ジャワの母子家庭救援を、マイクロファイナンスと能力開発および生産

物販売協力について、インドネシア女性組合(KOPWANI)との協働で開始した。
中部ジャワ地震・火山噴火による被災後に公的支援がないため困窮してきた母子家庭等、困窮する女性への支援を、2009-2010年のチャリティ募金活動の成果120万円をもって行うもの。



インドネシアフェスティバル 2010 で行った、母子家庭救援のための、C.P.I.のチャリティ募金活動

- ④ 中部ジャワ、東部ジャワ州および南スラウェシ州での困窮する地域での教育開発および能力開発プロジェクトにつき、地方政府との協議に入った。
- ⑤ インドネシア伝統漁業組合との専門家協力に係る協力協定を行った。
- ⑥ モハマディア大学との、専門化協力に係る協力協定を行った。

4. 教育里子たちとの交流活動（定款第七条 1 項 3 号）

(1)スリランカへの里親一里子交流ツアーを実施

2010年8月27～9月3日に会員11名で里子交流、および2011年1月15日の『教育里親制度発起25周年行事』に会員15名で参加。(団長:牟田理事)。新規会員を得ることができた。



(2)インドネシア協力学校への『折紙テキスト』の頒布のフォロー活動

日本の教育文化を学んでもらう活動を日本折紙協会と協働し、2010年度は、協力学校200校への頒布を行った。使用につきフォローしているが、「先生の派遣を望みたい」との声がある。



[詳細資料]

1. 教育里親制度プログラム (定款第7条第1項第1号)

(1) スリランカ協力団体 SNECC との協働

教育支援の明細

(付表-1) SNECC への教育支援金の前期—当期の実績比較 (単位:千円)

	2009年	2010年	
	実績	実績	2010年度の備考
里親数/CPI 里子数(人)	653 / 674	621 / 666	
学用品費	4,286	4,408	学用品: 制服、ノート、かばん等
毎月支給奨学費	6,592	9,369	補習クラス、特待生補助、通学バス、薬代等
年内支給奨学費	2,122	1,223	通学靴、制服仕立費、写真代等 (09年研修旅行費あり)、
(小計①)	(13,000)	(15,000)	教育里親からの支援金および特別会計にて賄った
地域ボランティア費			地域センターの日常活動実費補助
調査・報告作業費			SNECC による教育里子選考・日常把握・報告等活動費
(小計②)	(1,990)	(0)	
合計	14,990	15,000	

(2) インドネシア協力団体 PPKIJ との協働

教育支援の明細

(付表-2) PPKIJ への教育支援金の前期—当期の実績比較 (単位:千円)

	2009年	2010年	2010年度の備考
	実績	実績	
里親数/里子数(人)	234 / 270	226 / 302	チアンジュールのコミュニティカレッジの奨学生 60 名を含む
中学生学費	317	323	学費の支援
高校生学費	2,113	2,492	
中高生試験費	56	97	中高生試験費、卒業試験費の支援
大学生学費	728	663	大学1、2年生までの学費支援
教育里子会の活動	1,178	1,095	教育里子の集会・彼らの社会活動などを支援
調査・日常把握等	822	830	地域リーダー・アシスタント電話・郵送・交通費等実費
電話・郵便・交通費等			現地の地域経費
(小計)	(5,214)	(5,500)	教育里親からの支援収入により賄った
卒業生会活動	286		
調査等活動実費	2,534	2,078	インドネシア内定期利息収入による
合計	8,034	7,578	

2. 2010年度 県別教育里親登録口数 推移表（期末現在）

（INはインドネシア、SLはスリランカ）

県別	期首	新規	退会	期末	IN	SL
北海道	22	0	2	20	3	17
青森	5	0	0	5	1	4
岩手	1	0	0	1	0	1
宮城	7	0	0	7	3	4
秋田	3	0	0	3	1	2
山形	4	0	0	4	0	4
福島	10	0	0	10	4	6
茨城	34	1	2	33	8	25
栃木	6	0	1	5	1	4
群馬	7	0	1	6	3	3
埼玉	57	1	4	54	12	42
千葉	68	0	8	60	22	38
東京	229	3	14	218	64	154
神奈川	121	0	7	114	26	88
新潟	7	0	1	6	0	6
富山	0	0	0	0	0	0
石川	2	0	0	2	0	2
福井	2	0	0	2	0	2
山梨	9	1	1	9	5	4
長野	11	0	0	11	3	8
岐阜	6	0	0	6	3	3
静岡	27	0	1	26	6	20
愛知	5	0	0	5	1	4
三重	4	0	0	4	1	3

県別	期首	新規	退会	期末	IN	SL
滋賀	4	1	0	5	3	2
京都	8	0	0	8	1	7
大阪	26	2	3	25	6	19
兵庫	14	0	0	14	1	13
奈良	7	0	0	7	1	6
和歌山	1	0	0	1	0	1
鳥取	3	0	0	3	0	3
島根	2	0	0	2	2	0
岡山	7	0	0	7	3	4
広島	2	1	0	3	1	2
山口	4	0	0	4	2	2
徳島	2	0	0	2	0	2
香川	0	0	0	0	0	0
愛媛	0	0	0	0	0	0
高知	1	0	0	1	0	1
福岡	57	3	0	60	16	44
佐賀	0	0	0	0	0	0
長崎	3	0	0	3	1	2
熊本	11	0	0	11	2	9
大分	15	2	3	14	3	11
宮崎	7	0	0	7	1	6
鹿児島	1	0	1	0	0	0
沖縄	7	0	0	7	1	6
海外	3	0	1	2	1	1
	832	15	50	797	212	585

2010年度教育里親数=期首数+新規数

お知らせ

C.P.I.本部事務局への電話は、無料の IP 番号をお願いします。
事務局の電話代節約にもつながります。

050-5534-9384

地域の公共スペースでの展示会を開いてください。

例：京都で行って戴いた展示会のレイアウトを写真でお見せします。



《告知板》ご存知ですか！ <http://www.cpi-mate.gr.jp>

☆☆☆C.P.I.ホームページになるべく頻繁にご訪問下さい。

また、周囲の方々に知らせてください！

YAHOO、GOOGLE、GOOなどのポータルサイトで、『CPI 教育里親』で検索して戴くこともできます。

国際協力応援団寄付金収入につながる、WEB ページ評価の向上につながります。

会長からのメッセージは、頻繁に更新されていますので、皆さまの閲覧も頻繁にお願いします。

トップページにある“ボタン”をクリックしてください。盛りだくさんの情報があります。

- C.P.I.を知りたい、知らせたい の情報、会員への申込みも WEB ページから。
- 新聞記事で見る C.P.I.の活動があります。
- C.P.I.会員専用ページは、次第に充実されています。
- 事業報告、決算報告、現地会報のバックナンバーもあります